

社会貢献活動を通じて青少年の健全育成に取り組む
むガールスカウト兵庫県第26団をお訪ねしました。

子どもたちの成長が励みです！

団の歴史を教えてください

平部眞 「ガールスカウト」は、少女と若い女性のための社会教育団体です。1910年に英国で始まり、現在、世界145の国と地域で約1千万人の会員が活動しています。



平部 眞弓さん

主な活動は何ですか

平部眞 春の入団式・家族

ふれあい運動会・ハイキング、夏のキャンプ、秋の敬老の日のカードづくりとお月見会、冬の歳末街頭募金・クリスマス会、冬季スキー合宿、また早朝からの座禅とグリーンキャンペーン、ふるさとまつりではクラフトコーナーで地域の子どもたちとの交流など、多彩な活動に取組んでいます。

思いついた残っていることは

木村 指導者になってまだ5年目ですが、継続して子どもたちを見ているので、例えば、野外キャンプでは1食分の食事も、薪を集め、火をおこし材料を切ってみんなで力を合わせながら食事を作ることで「これまでできなかったことができるようになる」子どもたち一人

ひとりの成長の瞬間に関われることに喜びを感じます。



木村 裕見子さん

平部敬

小学校4年生のときに入団し、自分が年長になり年少のスカウトを見守る側になっていく過程で助け合いを学んできました。先輩が、大学生になって海外へ留学した時も「スカウトでの活動を通じて（人とのまじわり・自己開発・自然とともに）の3つの柱のもとで得たチャレンジ精神、やればできるという自信が役に立った」と聞き、また世界中に仲間がいるとこのことを改めて感じ、逆に頑張らなくては

と思い直しました。

親を感じていることは

平部眞 集団で活動しながら、仲間と協力することの楽しさや大切さを学び、思いやりの心を育てます。社会性の成長は、家庭ではなかなか実感できないのかもしれない。継続は力ですね。

平部敬

シニアスカウトが（中学生）が一番忙しいようです。高校生になれば自分で考え企画を実行し活動しています。また、女の子の活動なので、送迎など保護者の協力は欠かせません。



平部 敬子さん

木村

スカウトでの集会は、家庭では話しにくい悩み、部活のことなどを仲間や指導者が、たまには息抜きのか場として、子どもたちの居場所にもなっています。

今後の抱負や、町への要望

平部眞 2010年日本のガールスカウト運動は90周年を迎えます。これからは私たちの活動だけではなく地域に役立つ活動ができればと考えています。生涯学習ですね。また、町への要望としては、望海公園や、であり公園の野外炉に雨がしのげる屋根があれば助かるのではと思います。

近年は、核家族化どころか家族の個人化が進み、協調性や社会性を子どもたちがはぐくむことが難しくなっています。野外活動を通じて、助け合って取り組むことを学ぶガールスカウトの活動は、非常に意義のある活動だと感じました。今後の活躍をご期待いたします。

▼入会の問い合わせ 団委員長 平部さんまで（☎079-435-0122）



ぐんぐん
きゅんぐん

春風と太陽の下、花が咲き乱れ、華やかなムードを盛り上げています。自らの輝きで、活力みなぎる初夏を迎える素晴らしい季節です。▼勇退時期を迎えた団塊世代では地域デビューといった問題があるそうです。

地域の中で趣味やボランティアの活動に参画し社会貢献をすることで、社会的存在感を与えてくれるのではないのでしょうか。

▼住民生活には、福祉・環境・教育など課題が増えてきています。行政では、人的容量も予算規模においてもおのずと限界があります。団塊世代の活力は、町の将来を占う力ギとして、大きく期待される存在ではないでしょうか。

▼日々の暮らしの中に、楽しみがまた一つ増え、共に汗をかいた人たちと心と耐え忍んだ季節から、地域の初夏を待つ気分になさなか笑顔が増えた気がしませんか。

(N)